

# 友の会だより

No.69  
2023.2

茨城県陶芸美術館友の会

## 展覧会 案内

### 生誕150年記念 板谷波山の陶芸

**会 期**：令和5年1月2日(月)～令和5年2月26日(日) **主 催**：茨城県陶芸美術館  
**後 援**：笠間市 朝日新聞社水戸総局 茨城新聞社 NHK水戸放送局 産経新聞社水戸支局  
東京新聞水戸支局 毎日新聞水戸支局 読売新聞水戸支局  
**特別協力**：筑西市 公益財団法人波山先生会 廣澤美術館  
**企画協力**：株式会社キュレーターズ  
**助 成**：令和4年度地域ゆかりの文化資産を活用した展覧会支援事業  
**休 館 日**：毎週月曜日

板谷波山は明治5年(1872)に茨城県下館町(現・筑西市)に生まれました。東京美術学校(現・東京藝術大学)で彫刻を学んだ波山は、戦前は皇室技芸員として活躍し、戦後は工芸家として初の文化勲章を受章しました。その作風は、初期のアール・ヌーヴォーの表現を取り入れたものから、マットな質感が特徴的な葆光彩磁や、青磁や白磁など多岐にわたります。波山はこれらの表現を、妥協を許さない強い信念のもと91年の生涯に渡って展開しました。2022年に波山生誕150年を迎えたことを記念した本展では、全国から集まった波山の選りすぐりの名作123点を一堂に展示するとともに、故郷・茨城での作品を通じた地元の人々との交流についても紹介し、その多彩な業績をたどります。



▲彩磁蒔葉文大花瓶  
1911年頃  
廣澤美術館蔵



▲彩磁瑞花祥鳳文花瓶  
1916年  
MOA美術館蔵



▲葆光彩磁牡丹文様花瓶  
1922年  
東京国立近代美術館蔵



▲天目茶碗  
1944年 筑西市  
(神林コレクション)蔵

#### 展覧会関連催事のご案内

\*詳細は、チラシや当館ウェブサイト等をご覧ください。

##### ●ギャラリートーク

内 容：担当学芸員が展覧会をご案内します。

日 時：2月18日(土)13時30分から

場 所：当館地下1階企画展示室

参 加 費：無料(企画展観覧料にてご聴講いただけます。)

##### ●波山工房ロケセット公開

映画「HAZAN」の撮影に使われた、波山工房を再現したロケセットを公開します。

公 開 日：会期中の土、日、祝日



波山工房ロケセット内部

※新型コロナウイルスの感染拡大防止のため、今後の状況により予告なくイベント等を中止・延期する場合がございます。  
変更の場合には、当館ウェブサイトにてお知らせいたします。

茨城県陶芸美術館ホームページ <https://www.tougei.museum.ibk.ed.jp/>

## 紆余曲折の人生を活かして

森 恭さん

いくつかの職業を経験する中で、「物を作って、稼いで、生活したい」という思いが鮮明となり、陶芸の道を歩んで来られた森恭さん(城里町)の工房を伺いました。(12月14日)



**出身はどちらですか？**

笠間市です。

**陶芸の道に進まれた経緯についてお聞かせください。**

小さい頃から物づくり生活をしたと思っていました。祖母、母が美容師をしており人の姿、人の顔に興味がありました。その延長上で、立体の彫金をやりたいと思っていました。いくつかの仕事を体験した後、歯科は人の顔であり、造形であるという思いから歯科技工士になりました。歯科口腔は治すという面

と技巧的な面もあります。陶歯には特に興味がありましたが、制約を受けずに物を作りたいという思いから、再び他の仕事につきました。アルバイト先の陶芸関係者の紹介で茨城県窯業指導所(現茨城県陶芸大学校)に入りロクロを学びました。紆余曲折を経て、この頃作陶に自分の活路を見つけたと思います。遠い道のりでした。

**作品づくりについてお聞かせください。**

アールヌーボー的な美しさから、陶芸の美しさを目覚めました。修行中、身近にいたネコを長く観察して、ネコの世界を理解することができたので、ネコを題材として作陶しています。

自分のひな人形が無かったので、重陽の節句に十五夜さまに飾るため、ウサギのおひな様を作りました。それがとても好評を得たので、派生的にネコに入りました。小さい頃から立体物が好きという心が今につながっていると思います。今まで、遠廻りしてきましたが、全て無駄なものはないと思っています。自分の気持ちを吐き出したものが陶芸だったと気づきました。

**今後、どんなことをやりたいですか？**

今までの延長で作陶していきます。人形の顔には、好き嫌いがありますが、心の琴線に触れるものであれば飾ってもらえると思って作っています。悩みどころは多いですが、人の心の支えになる物、お守り、鼓舞する物、願かけになりうる物などを作っていきます。今まで、小さい頃は人間の負の部分を見ていましたが、人との出会いの中で人の多面さ、素晴らしさを見つけました。「円空になれればなりたい」という思いで作陶していきたいです。



**対談を終えて**

淀みなく話される姿から、遠廻りした分、自分の中に多くの物を取り入れていると感じました。人の顔のひな人形の精巧さ、愛らしさに心をうばわれました。動物の陶器から食器まで幅広く制作されており、人間味ある作家さんでした。

## 呈茶会を開催



11月13日(日)に友の会主催の呈茶会を美術館地下1階オープンギャラリーで開催しました。当日は、茨城県民の日ということもあり、たくさんのお客様が来館されました。席主を会員の花田和枝様(石岡市)に務めていただき、予定した人数を超えるたくさんの方々にお茶とお菓子を楽しんでいただきました。

## 研修視察…3年ぶりに実施 京都・奈良・信楽

【旅行記】12月1日(木)、東京駅に集合し10:00の新幹線のぞみ219号で京都に出発。12:15京都到着、日差しはあるものの風は冷たい。新型コロナウイルス感染症による行動制限は無く、旅行支援も実施となったことで旅行者が増えたと耳にしていたが、思ったより人は多くない。紅葉のピークは過ぎたとはいえ京都市内の木々は彩りを残していた。バスで昼食会場のイタリアンレストラン「ザ・ソウドウ東山京都」に向かう。画家の竹内栖鳳の旧宅をリノベーションしたとのこと、木々に囲まれ落ち着いた雰囲気の中での昼食だった。その後、楽美術館に向かう。楽家自宅に隣接した美術館には、歴代の作品が展示されていた。16代楽吉左衛門氏より楽焼の歴史や作品制作についてお話を伺うことができた。宿泊は奈良市の奈良ホテル、奈良公園内にある100年以上の歴史あるホテル、明け方のサッカーワールドカップ 日本対スペイン戦で盛り上がった部屋もあったようだ。

二日目は、奈良公園内の興福寺(国宝館)・奈良国立博物館を見学した。仏像をじっと見ていると、心が癒やされる。昼食後に、赤膚焼の窯元を訪れ、登り窯やロクロでの成形の様子を見学した。二日目の宿は大津プリンスホテル、琵琶湖のほとりにあり地上30階からの眺めが素晴らしい。琵琶湖を挟み昇る朝日を眺めながら三日目を迎えた。朝食後、信楽のミホミュージアムに移動した。こんな山奥に博物館が・・・と思ったが、展示内容は素晴らしくもっと見ていたくなった。信楽は笠間と似た山間の地で静かなたたずまいであった。道路沿いの店には有名なタヌキの焼き物が並べられていた。昭和天皇が信楽に行幸された際に、タヌキの焼き物にも日の丸を持たせて歓迎した。その光景を目にして昭和天皇は大感激。「おさなとき あつめしからに 懐かしも 信楽焼の 狸を見れば」という歌を詠まれたことで信楽のタヌキが有名になったそうだ。MIHO MUSEUM 見学後、滋賀県立陶芸の森・創作館を見学し、昼食後、京都駅より帰路についた。3年ぶりの研修視察、久々の旅行となったが充実した3日間となった。



十六代 楽吉左衛門氏を囲んで 楽美術館



## 良い品をそろえてご来店をお待ちしています

### 友の会特約店のご紹介

- アトリエ・フラスカ 0296-72-9322
- 笠間工芸の丘 0296-70-1313
- 1月25日(水)～2月12日(日)  
アトリエCicada田中尚・高橋紗緒璃展
- 1月25日(水)～2月26日(日)  
桃宴～笠間の陶びな展～
- 2月15日(水)～3月5日(日)  
柳星太・鷺沢ワシ子二人展
- 3月1日(水)～3月19日(日)  
一年後展～笠間陶芸大学校～
- 3月21日(火)～4月2日(日) 砂山ちひろ展
- 4月5日(水)～4月23日(日)  
ローランド・サクセ展
- 4月26日(水)～5月14日(日) 三瓶明子展
- 4月26日(水)～5月28日(日) 新進作家陶芸展
- 笠間みんげい 0296-72-9280
- かつら陶芸 0296-72-6688
- 3月25日(土)～4月9日(日) 駒澤博司 小品展
- ギャラリー桜 0296-72-0803
- 1月2日(月)～3月3日(金) 麻衣子雛展
- 3月4日(土)～3月19日(日) 小峰尚展

- 3月25日(土)～5月5日(金) 陶兜展
- ギャラリー爽鳳SOHO 0296-72-9121
- ギャラリー舞台 0296-73-0700
- 笠間焼窯元共販センター 0296-72-5665
- きらら館 0296-72-3109
- 向山窯 0296-72-0194
- 丹野陶房 0296-72-4028
- 陶芸館 0296-72-6650
- ギャラリー陶正 0296-72-4007
- 東風舎 0296-72-5205
- 無限堂 0296-72-1695
- やまさき陶苑 0296-72-6865
- 涼 0296-72-0712
- ミュージアムショップ(館内) 0296-72-7105
- レストラン「風の丘」(館内) 0296-72-0197

各店舗で買物をされる際、会員証を提示していただくと、陶器が10%割引となります。(一部除外品があります。) 笠間工芸の丘は体験のみ対象です。レストラン「風の丘」は飲み物サービスとなります。

### 友の会からのお知らせ

## 会員募集

茨城県陶芸美術館友の会では、会員を随時募集しています。陶芸が好き、陶芸についてもっと知りたい、体験してみたい・・・そんなあなたの期待に応えます。

年会費 3,000円(夫婦会員は2人で5,000円)

- 特典1** 常設展が、何度でも無料観覧できます。
- 特典2** 企画展が年2回まで無料で観覧できます。
- 特典3** 会報の無料配付(年3回)を受けられます。
- 特典4** 特約店において、陶磁器等の割引が受けられます。
- 特典5** 友の会主催の各種事業に参加できます。

お問合せは茨城県陶芸美術館友の会事務局までお願いします。  
茨城県陶芸美術館友の会事務局(茨城県陶芸美術館内)  
電話 0296-70-0011 / FAX 0296-70-0012

### 編集後記

3年ぶりに実施した国内研修視察で訪れた初冬の京都は、コロナ禍前の賑わいを取り戻しつつありました。外国人観光客も今後増えていくことと思います。旅はいいものだと再認識しました。

### 友の会だより No.69

発行: 令和5年2月1日  
編集・発行: 茨城県陶芸美術館友の会  
〒309-1611 笠間市笠間2345(茨城県陶芸美術館内)  
電話 0296-70-0011 FAX 0296-70-0012  
編集委員: 小栗 和子 鈴木 充